

# 神戸産ハナムグリ亜科甲虫に就いて

高橋 壽 郎

## まえがき

筆者は前号に於て神戸産クロコガネ属に就いて発表したが、今回同じ目的でもつて神戸産ハナムグリ亜科に就いて発表したい。

ハナムグリ亜科は金龜子虫科の内比較的一般に良く知られて居り、現在の日本に産するものは6属、15種1亜種、3変種、4異常型が知られている。而して神戸産としては6属、12種、2変種、2異常型と日本産のほとんどを産する。

## 目 録

### Subfamily CETONIINAE

#### 神戸産 CETONIINAE の属の検索表

- 1 (2) 前背板の基部は一直線をなす。  
.....Rhomborrhina
- 2 (1) 前背板の基部は一直線をなさず、左右多少共角度をなす。
- 3 (4) 翅鞘の側縁明かなる彎曲状の切れ込みを有せず。中胸突起は体の下面と同色をなさす。  
.....Anthracophora
- 4 (3) 翅鞘の側縁明らかた彎曲状の切れ込みを有す。中胸突起は体の下面と同色なり。
- 5 (6) 前背板の後縁中央にて明かなる矢筈形をなさず。稜状板の先端尖らず。附節短かし。  
.....Glycyphana
- 6 (5) 前背板の後縁中央にて明かなる矢筈形をなす。
- 7 (8) 中胸突起は先端円味を帯び下方に曲る。  
.....Cetonia
- 8 (7) 中胸突起は扁平にして前端巾広きか、短くして前端球状を呈す。
- 9 (10) 頭楯は稍長形で前方狭まり、先端2分し、縁は上反しない。  
.....Oxycetonia
- 10 (9) 頭楯は長形でなく、前縁は彎曲しないか又は僅かに彎曲し且多少共上反する。  
.....Protaetia

#### Genus Rhomborrhina Hope

##### 神戸産 Rhomborrhina 属の種の検索表

- 1 (2) 体光沢弱く青銅色を呈す。.....カナブン
- 2 (1) 体強き光沢を有す。
- 3 (4) 全体緑色なり。.....アオカナブン R.unicolor
- 4 (3) 体黒色を呈す。.....クロカナブン
1. Rhomborrhina japonica Hope (カナブン<sup>1)</sup>)

採集地<sup>2)</sup> 鳥原、多田

分 布、北海道、本州、四国、九州、済洲島、朝鮮支那。

2. Rhomborrhina polita WATER. クロカナブン  
本種の神戸に於ける産地は余り知られて居ない。今後の調査に依る事としたい。

採集地、六甲

分 布、本州、九州。

(台湾産は別亜種—SAWADA. Trans. Kansai Ent. Soc. XIV. 2, p. 70. 1949)

3. Rhomborrhina unicolor MOTSCH アオカナブン  
採集地、鳥原、箕谷、多田

分 布、北海道、本州、九州、朝鮮。

#### Genus Cetonia Fabricius

神戸産の Cetonia 属は次の2種である。

1 (2) 上面に細毛を有す。.....C. pilifera

2 (1) 上面に細毛を有せず。.....C. roelofsi

4. Cetonia pilifera MOTSCH ハナムグリ

採集地、鳥原、住吉、香櫛園

分 布、北海道、本州、伊豆諸島、隠岐島、済洲島。

5. Cetonia roelofsi HAROLD アオハナムグリ

採集地、鳥原、鈴蘭合、山の街、箕谷

分 布、北海道、本州。

本属には他に1種 Cetonia bodemeyeri と云うのが kobe を産地としてあるが、此の種の採集された事は原記載以後全く知られず、原記載 (Ent. Mitteil. IV, p. 20. 1915) に依つて見ても C. roelofsi と非常によく似て居り異なる点は "Habituell ähnlich mit Roelofi Har., doch im allgemeinen schmaler Granzend grün mit goldigem Schein" だけである。筆者は現在では C. roelofsi と同一種と見て本報文では省いてある。今後 Cetonia 属の多数の標本に依り再検討の機ある迄保留と致したい。

#### Genus Protaetia Burmeister

##### 神戸産 Protaetia 属の種の検索表

- 1 (2) 体背面は点刻少く平滑にして、体色は紫銅のみ。.....P. cataphracta
- 2 (1) 体背面は一樣に点刻を装う。

- 1) 文献の掲出及び普通種に就いては解説を省略する。
- 2) 採集地には現在筆者所有標本に就いてのみ記した。

3 (4) 前胸背巾極めて狭く、合色色彩を異にする。

……P. lenzi

4 (3) 前胸背巾狭からず、合色同色なり。

5 (6) 体は方形、黒銅色、会合線先端稍突出す。白斑はへの字状乃至集点状。……P. brevitarsis

6 (5) 体は長方形、色形変異多く、紫、緑、褐色の別あり、白斑は点状にして散在し、会合線の先端突出せず。……P. orientalis

#### 6. *Protaetia lenzi* HAROLD

キョウトアオハナムグリ

新島、木下両氏に依り新種として発表された *Potosia nitidiscutellata* NIIJ. et KIN. の学名が用ひられて来たものが、今西氏の研究に依り *Protaetia hondana* (1913) の Synonym であり、且 *hondana* は *Protaetia lenzi* (1876) の雄に対して与へられた Synonym である事が明かにされた。本種は一般には可成り知られて居る種であると思はれる。個体数は余り多からざる様思われる。

採集地 御影、鳥原

分布 本州、四国、九州。

#### 7. *Protaetia orientalis* GORY et PERCH.

シロタンハナムグリ

本種は極めて普通に産し、充分なる記述も多ければ此處に其の記載は省略するが、たゞ色彩の変化が多いので例を鳥原産32匹を採り如何なる割合でどの様に産するかを示すにとどめる。本種にも頭楯が2片状を呈せざるものがあるが之は個体変異と見て居る。

銅褐色型…10合、7♀、銅縁褐色型…8合、1♀、銅紫色型…3合、緑色型(銅縁色と云うのでは無く美しい褐色をしているもの)…2合、紫色型美しい紫色をしてやゝ細型)…ムラサキハナムグリに似るも光沢著しい。…1合、

以上の如く銅紫色、銅縁褐色型が大部分を占めて居る。

採集地 鳥原、多田、須磨

分布 本州、四国、九州、台湾、朝鮮。

#### 8. *Protaetia brevitarsis* LEWIS

シラホシハナムグリ

本種は前記 *orientalis* と混同されて居たが、最近に至りようやく両種の認識がされて各地からの記録もはつきりするに至つた。次に *orientalis* との区別点を記して見る。

1. 頭楯の前縁軽く上反するが、彎入し、2片状を呈する事なし。2. 体は概ね方形を呈する。3. 背面の斑紋は棒状「へ」字状乃至集点状。4. 会合線先端の著しく突出すること。5. 尾節板は垂直に下向し、上面よりみて翅端に隠れる。6. 体色は黒紫色乃至

黒銅色なる事。7. 背面の点刻はより弱く、小型にして疎なる事。8. 雄は腹溝を有する事。

var. *crassa* HAROLD が確実に内地に産するか否か未だわからない。在支間、本種並びに斑紋の変化するものを多数見、採集したが現在標本を有せぬので何とも云えぬが、KRAATZ氏に依り支那、満洲産の var. の記録が可成りある。

採集地 住吉、鳥原、多田

分布 本州、四国、九州、朝鮮。

#### 9. *Protaetia cataphracta* ARROW

ムラサキツヤハナムグリ

外観は *orientalis* に酷似する。

神戸附近の記録は無い様であるが大坂(箕面、妙見、久安寺川)には記録があり、或いは採集されて居る事だと考えるが一応簡単な記載をして置く。恐らく個体数は少いと考えられる。

頭部長方形、円形大型の点刻を粗布す。頭楯の前縁軽く上反し、2片状を呈せず、眼は黒色、大型突出す。前胸背側縁は角度をなし彎曲す、中央に疎に側縁に大型の密なる点刻を有する。稜状板長三角形にして先端尖らず、点刻全く欠き平滑。翅鞘に点刻は少く、強い光沢を現す。稜状板附近に小円点刻を疎に装ふ、凹陷部側縁部其他はすべて馬蹄形の点刻を有す。会合線附近に二対、側縁部に一對の細い棒状白斑、他に若干の小白斑を有する。翅鞘の側縁は翅端に近く急に狭まる。尾節板は横皺状点刻を有し、稍斜に突出、背面よりみて翅端外に突出する。体下は背面と同色にして強い光沢あり、腹節に白斑を缺く胸節及脛節には黄色毛を認め得。

採集地 六甲

分布 北海道、本州、四国。

*Protaetia* 属の日本産は他に2種 *Protaetia LEWIS* (ムラサキオオハナムグリ) *Protaetia miyakoensis NIJIMA et KINOSHITA* (ミヤコハナムグリ) が知られて居る。

#### Genus *Anthracophora* Burmeister

#### 10. *Anthracophora rusticola* BURMEISTER

アカマダラコガネ

日本産 *Anthracophora* 属は本種1種のみである。個体数はやゝ少い。

採集地 西宮、鳥原

分布 本州、九州、済州島、朝鮮、支那、アムール、蒙古。

#### Genus *Glycyphana* Burmeister

*Glycyphana* 属には日本産1種、1亜種が知られて居るが、神戸産は次の1種のみ知られて居る。

11. *Glycyphaua fulvistemma* MOTSCH.

クロハナムグリ

神戸地方に於いては普通に産する。尙朝鮮産の標本は2古、(Ⅶ-1939. 道遙山産)内地産に比して胸背板に白斑を欠き翅鞘白斑はやゝ大形である。分布として従来台湾が無かつたが筆者は台湾産1♀(15-Ⅶ-1'3). 埔里産)を所有する。之は胸背板に全然白斑を欠き、翅鞘上に略ぼ中央に外方巾広く内方に狭き白斑を有するも内地産に比し小さく薄色、之は先方に1個の小斑紋を有す。尾節板に2個の淡褐色斑あり、先端に灰色の短毛を存せず、下面光沢ある黒色にして後胸部及び腹部の各節の両側に小淡褐紋を散く、体表面に絨毛状を呈せず。

採集地 鳥原、山の街、箕谷

分布 本州、済洲島、朝鮮、蒙古、大連、台湾。

11a. ab. *nagoyana* TAKAGI

原記載に一致する1♀を採集す。

体は天鵞状の黒色にして光沢あり、翅鞘の2紋、翅1の二紋、胸背の両側各1紋は装はない。

採集地 箕谷

分布 本州。

11b. var. *sieboldi* SNELLEN VAN VOLL.

一見して胸背板両側は明瞭に白色帯を有し、中央に縦白斑、他に10個の白斑を明瞭に有し、翅鞘肩部に小白紋一対と翅鞘先端に近く左右に小白斑略ぼ中央に外方巾広く内部に狭くなる白斑を有す。尾節板は2個の淡褐色斑あり、先端に近く灰色の短毛を有す。下面光沢ある黒色にして後胸部及び腹部の各節の両側に小淡褐色斑あり。

採集地 箕谷

分布 本州、台湾。

Genus *Oxycetonia* Arrow

*Oxycetonia* 属としては日本産は1種のみ産する。

12. *Oxycetonia jucunda* FALDELMANN

コアオハナムグリ

採集地 鳥原、舞子、岩屋、箕谷

分布 本州、八丈島、四国、九州、済洲島、朝鮮琉球、奄美大島、台湾、支那、アッサム、シツキム、ベンガル、ネパール、シベリヤ、カリフォルニア。

12a. ab. *dolens* KRAATZ

体黒色にして斑紋し。

採集地 鳥原、香榎園、須磨

分布 日本、台湾、アムール。

12b. ab. *ferruginea* BEITTER

基種と同じく毛を有す、下面黒色にして上面銅赤色を帯ぶ。原種に混じて割合採集出来る。

採集地 岩屋、鳥原、香榎園、舞子、箕谷

分布 本州、朝鮮。

*Oxycetonia* 属には従来他に1種 *Oxycetonia forficula* が日本産として知れて居たが、沢田氏に依り *Oxycetonia jucunda* の亜種として取扱はれる様になつた。(虫報、No. 2, p. 8, 1950)。

参考文献

- Heyden; Die coleopterologische Ausbeute des Prof. Dr. Rein in Japan Deutsche. Ent. Zeits., XXIII Heft. II, p. 347 (1879)
- Curti; Beiträ ge zur Kenntnis der paläarktischen Cetoniden I, (Col.) Ent. Mitt. Band, VI, Nr. 11-3, pp. 17-26 (1915)
- Harold; Beiträge zur Käff fauna von Japan Deutsche Ent. Zeits. XXI, Heft. II, p. 356 (1877)
- Niijima et Kinoshita; Die Untersuchungen über japonische Melolonthiden (I) 北海道大学農学部演習林研究報告 II, 2 (1923) (II) 同上, IV (1923)
- Arrow; Notes on the Lamellicorn Coleoptera of Japan and description of a few new species, Ann. Mag. Nat. Hist., (8) XII, pp. 394-408 (1931)
- 横山桐郎; 日本の甲虫 正、続 (1931)
- 加藤正世; 分類原色日本昆虫図鑑、8輯 (1933)
- 神谷一男; 安立綱光、原色甲虫図譜 (1933)
- 加藤正世; 主要金龜子科の分類(4) 昆虫界、II, 18/19, pp. 342-345 (1935)
- 加藤正世; シロテンハナムグリとシラホシハナムグリ 昆虫界、V, 43, P. 619 (1937)
- 三輪勇四郎; 日本甲虫分類学 (1938)
- 今西芳之 キョウトアオハナムグリの学名に就いて、関西昆虫雑誌、V, p. 23, pl. III. (1938)
- 米谷正司; キョウトアオハナムグリの雌雄に就いて、昆虫界、VI, 47, p. 94 (1938)
- 米谷正司; 拙論キョウトアオハナムグリの雌雄の記載に就いて、昆虫界、VI, 56, p. 796 (1938)
- 三輪、中条; 日本産鞘翅目分類目録 Face. 5 (1939)
- 平山修次郎; 原色甲虫図譜 (1940)
- YAWATA; Synonymie notes on Japanese species belonging to the Genus *Pr. otaetia* (1) Kontyu, XV, 2, p. 75 (1941)
- SAWADA; Two new Cetonine Beetles of the Genus *Glycyphana* Zool. Mag. 54, 6, pp. 241 (1942)
- 新島、村山; 日本昆虫図鑑 (1950)